

努力賞

クレヨンやさしさ

荒川区立第二峡田小学校 五年

稲葉 祐月

柳田先生こんにちは。私は第二峡田小学校の五年生です。私は「ちいさなくれよん」という本を読み、このお手紙に書きました。

この本のお話は、男の子が黄色いくれよんをすてたことから始まります。そのくれよんはもつと人の役に立ちたいと、家からとび出し、くつの黄色の部分、おもちゃの車、石をぬり直してあげ、最後には、星をぬり直そうとたびたび立つお話です。

私が心に残った場面は、くれよんがくず箱から出ていく場面です。

柳田先生は自分がくれよんだったとして、くず

箱にすてられたらどうしますか。私だったらくず箱の中でどうすればいいのかわからなくて、うじうじしていてそうです。だからこのくれよんの行動にはドキッとしました。

私はこの本を読み、このくれよんは、やさしさがあると思います。理由は、なにもおそれずに、いろいろな物をぬり直してあげているからです。私は今バレーボールをやっています。だから、このクレヨンを見ならい、なにもおそれずに、周りの人を気づかうやさしさをもちたいです。また、この間ブロックを教えてもらいました。今はこわくてにげてしまい、ボールにさわることでもできないけれど、もっと練習し、チームにこうげんできるようにになりたいです。

クレヨンは、自分の体をけずっても、人の役に

立とうとがんばりました。私も自分のことだけではなく、思やりの気持ちをもっともって、周りの人と接していこうと思います。柳田先生もこの本を読んで、黄色いくれよんのやさしさを感じてく  
ださい。